

一橋大学名誉教授木山英雄業績要目

論文・雑説類

- 一九五七年
「阿Q正伝」について（東大中文学会『会報』一二）
- 一九五八年
『呐喊』末尾の三篇について（魯迅研究会『魯迅研究』二〇）
阿Qを英雄と呼んだら可笑しからうか（『魯迅研究』二三）
- 一九六〇年
「墓碑銘」を中心に―『野草』の骨―（『魯迅研究』二六）
- 一九六一年
「出関」雑談（『魯迅研究』二九）
- 一九六二年
『水滸伝』の世界（『世界の歴史』六 筑摩書房）
- 一九六三年
『野草』の形成の論理ならびに方法について―魯迅の詩と
「哲学」の時代―（『東京大学東洋文化研究所紀要』三〇）
「東亜学術研究委員会」と吉川幸次郎博士（『魯迅研究』三
一）

紙虎空談（『魯迅研究』三三）

一九六五年

実力と文章の関係―散文の発達と周氏兄弟―（仁井田博士追

悼論文集『現代アジアの革命と法』二 勁草書房）

『語絲』の眺め（『大安』一一―一五）

『水滸伝』の背景（大阪市立大学中国文学研究室編『中国の
八大小説』平凡社）

魯迅の周作人評・二片（『中国近代思想史研究会会報』四九）
紙虎詩話（『魯迅研究』三四）

一九六六年

最近の中国文学・毛沢東の詩から「業余作家まで」（『一橋新
聞』八〇〇）

噫、仁井田先生（仁井田記念講座『東洋の法と社会』月報
一）

一九六七年

周作人―思想と文章―（東京大学中国文学研究室編『近代中
国の思想と文学』大安書店）

霊怪・神魔という世界―小説と俗信―（『中国文化叢書』六

大修館)

一九七一年

書評・駒田信二『対の思想』(一橋大学語学研究室『言語文化』八)

やや大仰に鬼を語る(『中国古典文学大系』月報四三)

一九七三年

『莊周韓非の毒』(『一橋論叢』六九—四)

一九七四年

文語から口語へ—中国文学の一断面—(『言語』三一—八)

語文問題と周作人(『漢文教室』一一—一)

一九七六—七年

周作人淪陥顛末(一)—(十二)(『思想』六一—九—六三—)

一九七八年

『北京苦住庵記—日中戦争時代の周作人—』(『右改題単行本』)

(筑摩書房)

一九七九年

中国の文芸と蘭(『東洋蘭』樹石社)

浙東「墮民」雑考(『言語文化』一六)

一九八三年

正岡子規と魯迅、周作人(『言語文化』二〇／(再録)伊藤

虎丸等編『近代文学における中国と日本』汲古書院)

一九八一年

『李卓吾先生遺言』(伊藤漱平編『中国古典文学の世界』東

大出版会)

一九八四年

浙東「墮民」雑考(再録)／同続考(『社会史研究』四／

(再録)西順蔵等編『アジアの賤民差別』石井書店)

書評・松永正義等訳『終戦の賠償』(『鄒其山』季刊五)

西夫子を悼む(中国研究所『中国研究月報』四四—)

一九八五年

紹興師爺(『魯迅全集』月報一三)

書評・竹内実等『五四運動の研究』第三函(『東洋史研究』

四四—三)

一九八七年

我之周作人研究(北京魯迅博物館『魯迅研究動態』五七)

周作人に関する新史料問題(上)(下)(『文学』五五—八、

九)

『周氏兄弟』について(『鄒其山』季刊一一—五)

一九八八年

乾栄子と羽太信子(『鄒其山』季刊二二—)

一九八九年

乾栄子と羽太信子・追説(『中国図書』一一—四)

中国の「墮民」など(朝日百科『世界の歴史・理性と差別』)

一九九〇年

天安門私語(『文学』季刊一一—)

知堂獄中雑詩私抄(『一橋論叢』一〇三—四)

書評・コリア研究所編訳『消された言論』(『未来』二九〇)

一九九一年

紹興「三埭街」の記—歴史と伝説—(『文学』季刊二—)

魯迅の「中間物」意識の空間的位相(江蘇文芸出版社『学

人) 一)

一九九三年

周作人狙撃事件と「抗日殺奸団」(岩波講座『近代日本と植民地』月報三)

「読『魯迅の紹興』ノート」を読み(『中国文芸研究会会報』

一三八)

一九九四年

鹿名『阿頼耶識論』(稿本) おぼえがき(『一橋論叢』一一二

一三)

旧詩の縁—蕭紺弩と胡風、舒蕪—(中国文化社会学会『中国

—社会と文化』九)

周作人の周恩来宛書簡・訳ならびに解題(『中国研究月報』

四八一—八)

一九九五年

編者はしがき／追悼文補説(木山英雄編『西順蔵 人と学問』内山書店)

張深切の北京日記を読む(中国文芸研究会『野草』五六)

一九九六年

整理の後に(松枝茂夫訳『周作人随筆』富山房)

楊憲益とその『銀翅集』のこと(『文学』季刊七一—四)

「太炎先生の二三の事」—思想の新旧とは—(『しにか』七一—

一一)

The 'Literary Renaissance' and the 'Literary Revolution'

(Toyobunko 『ACTA ASIATICA』22) (同時中文版)

「文学復古」与「文学革命」『学人』十)

一九九七年

「文学復古」と「文学革命」(右日文版)(『中国—社会と文化』一二)

一九九八年

「打油」三昧—黄苗子—(『文学』季刊九—一)

諷刺の使命—荒蕪—(『文学』季刊九—二)

生病老死の戯れ—啓功—(『文学』季刊九—四)

「ミシミシ」「バックカロー」(『しにか』九—四)

一九九九年

老トロッキストの獄中吟—鄭超麟—(『文学』季刊一〇—二)

廬山の面目—李銳—(『文学』季刊一〇—二)

翻訳類

一九六二年 (共訳)『魯迅集』(『中国現代文学選集』二 平凡社)

一九六四年 (共訳)『淮南子』(『中国古典文学大系』六 平凡社)

(共訳)馮德英『迎春花』(新日本出版社)

一九七三年 周作人『日本文化を語る』(筑摩書房)

一九八五年 魯迅『故事新編』(魯迅全集)三 学習研究社)

一九九〇年 袁士雄等『魯迅の紹興—江南古城の風俗志』(岩波書店)